



→江戸川の水も煮え
そうな暑い日が続い
た一週間だった。

←河川敷にある広場は
土日には少年サッカー
や野球でにぎわうが、そ
他の日にはお年寄り
たちが集まってきてゲ
ートボールに興じる。



やっと夏がきた、じゃあなくて夏が戻ってきた。

今週は、週明けから陽ざしが強くなり、連日のように汗まみれになった。でも、もうすぐ九月なのだからそのうち涼しくなると言い聞かせていたら、日曜日には北よりの風が吹いて過ごしやすくなった。ホッと一安心。

「それにしても秋田のほうはすごいことになったねえ」

二十五日の金曜日の朝、矢切の渡しに下りると舟頭さんがいった。

秋田地方を中心に集中豪雨があり雄物川が氾濫した。翌日の二十六日は大曲の花火大会の日。河川敷が一面、水におおわれ花火大会の観覧席が水没した映像が前夜、テレビで放映されたせいで舟頭さんは、朝一番にそんな言葉をかけたのだろう。

「だいぶ水が引いたみたいだよ。セツトされた客席を掃除していたみたいだから」

私が家を出がけに見たテレビでは、そんな映像が流されていた。

「花火師も打ち上げの筒を点検してい

今週のクマ

→今週のクマはめいっぱい舌を出して暑さをしのいでいた。



→矢切の渡しにあるアカメヤナギの老木の枝にできた空洞にモンズメバチが巣をつくっていた。先週のセミを食っていたハチだ。



たよ。明日の朝、六時ごろに決行するかどうか決めるらしい」

ヤッさんがいった。

「オレらには関係ないのに、なんで大曲のことを気にしてんだらう？」

と、舟頭さん。

一カ月前、対岸の柴又で花火大会が行われたばかり。舟頭さんの頭の中にはそのことが残っていたのだらう。

大曲市はいまは合併して大仙市となっているが人口は四万人弱。そこに花火大会の日には七十万人とも八十万人ともいわれる数の見物客が集まるという。

河川敷につくられた観客席は有料で千五百円から三千円はするという。さぞ金が集まることだらう。

二十六日の夜はNHKのBSで中継していたが、たしかに柴又の花火と違って全国各地の花火業者が参加していて、なんでも最終的はどの業者の花火がよかつたか決めるようだ。たしかに柴又の花火とは規模が違う。

そんなわけで、今週の話題は秋田県にとんで大曲の花火大会で終わった。

それにしても最近の天気はおかしい。地球がどうにかなっているのだらうか？